

「新しい戦前にさせない」

連続シンポ第4回

『中国・朝鮮の脅威論を越えて』

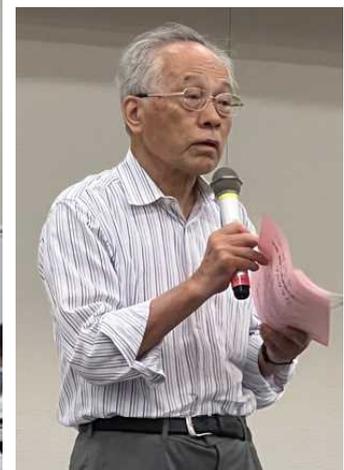
—変容する世界を見据え、平和の展望考える—

*全篇はHPにアップされています。

「共同テーブルHP」 <https://www.kyodotable.com/>

第4回シンポは270人が参加。杉浦ひとみ弁護士の総合司会。孫崎亨さんの講演。佐高信の主催者挨拶。前田朗の進行で、上海大教授・王祝さん、朝鮮大教授・李柄輝さん、青山学院大名誉教授・羽場久美子さんのシンポと、熱気に満ちたものとなった。

概要を報告します（文責・事務局）



佐高 信さん

孫崎亨さん講演要旨

敵基地攻撃能力というが、攻撃したら中国や朝鮮から倍返しされるだけ。何故米国のいいなりになるのか。麻生は「公明党に攻撃能力を認めるよう説得したがうまくいかなかった。しかしウクライナの惨状を見て認めてくれた」と述べたが、ウクライナ問題を理解しないといけない。昨年「NATO非加盟」などの条件で停戦の機会があったがゼレンスキーは断った。セルビア爆撃などNATOや米国の問題点を指摘するものはメディアから排除された。

何故「台湾有事」なのか。中国の経済成長が著しく米国が追い越されそうになったから。中国No.1を米国は許さない。おさえこもうとする。中国との経済関係が強い日本が自国の利益を考えず米国の軍事的な求めに応じるほどおかしい政策はない。台湾の世論はハーバード大の現地世論調査でも、即時統一は1.2%、即時独立は4%。圧倒的多数が現状維持を望んでいる。なのに「台湾有事」がたきつけられている。台湾が「独立」を望み中国が武力で抑えるように考え、リベラル派も含めて「武力で現状変更は許さない」と言っている。まやかした。有力な



孫崎 亨さん

米国の研究所ですら米中が戦争すれば、今は米国が負けると分析している。日中国交回復でも米中共同声明で「台湾は中国の一部」とした約束を日本は守りますといえればそれですむ。「北は何をするかわからないから対抗する力を」というが、日本は「北」を武力攻撃しないといえれば、「北」は日本を攻撃する必要はない。そんな簡単なことがなぜできないのか。

シンポジウム要旨

王 祝さん 中国の海洋戦略を軍事的なものとして誤解されるが、海洋経済、生態系保護、権益保護（海賊対策）が主だ。中国は軍事力を高めたが戦争する意思はない。台湾海峡を米国湾岸警備隊の船が通行するが、中国海軍は近海と交易ルートにしかいかない。上海協力機構はNATOとちがいで「非軍事同盟」と「内政不干涉」の原則を堅持している。「一帯一路」も中国は提唱しただけで、共同の



左から王祝さん、李柄輝さん、羽場久美子さん

つながりだ。

李 柄輝さん Jアラートなどで「朝鮮は怖い」となっている。しかし脅威は鏡のようなもの。ピョンヤンは日本の今の動きを脅威に感じている。金正恩主席は就任時に数年で戦争終結後は経済建設と考え、2017年南北首脳会談そして朝米首脳会談をし、核ミサイル実験も停止した。しかしハノイでの朝米首脳会談が決裂し、経済と軍事の両輪を推進。バイデン政権が「民主主義と専制主義の対決」を打ち出してからは「新冷戦」とみなすようになった。日米韓の軍事トライアングルと日本の軍拡を前にミサイル実験も再強化。結局双方の脅威をどう消し去るか対話に戻るしかない。朝鮮戦争が終れば核は不要だ。

羽場久美子さん あと20年もしないうちにG7は先進国でなくなり経済力で中国がトップ、インドも米国を抜く。米国は「専制主義対民主主義」を唱えるが「民主主義」とはG7のことだ。軍事力で最後の覇権を維持しようとしている。ウクライナ戦争でロシアの石油を売らせずシェールガスで儲け大量の武器を他国に売りつけている。米国は中国封じ込めのために「台湾有事」を持ち出している。「専守防衛」とは米国のために倍返しが必要攻撃能力をもつことだ。米国に向けた「北」の長距離ミサイルを日本は撃つべきなのか。

米国はAUKUSでアングロサクソン中軸で対中包囲網をつくり日本が組み込まれる一方で、急成長するアジアはインドも中国もASEAN諸国もそれぞれ対立を抱えながらも協力し合っていこうとしている。先日沖縄で中・韓・インド・台湾含めた会議がされた。



司会の前田朗さん

沖縄は琉球王朝時代から中国はじめ東アジアと深いつながりがあり「平和のハブ」になる。玉城知事も自治体外交で積極的に動いている。アジア人同士の戦争はしないと決意しよう。

前田朗さん（司会者） から「アングロサクソンによる地球規模のグレート・ゲームに駒として使われるのではなく、グローバル・サウスと共に対話と共同の東アジアをつくっていこう」と集約。

会場からの発言を受け、王さん、李さん、羽場さんからコメントをいただいた。

最後に**服部良一さん**（社民党幹事長）が「憲法記念日に『非武装・非同盟の日本を』という新社会党との共同声明を出した。そういうと『お花畑』と批判されるがこういうことを唱える勢力があってもいいでしょう」とアピールして閉会した。

シンポジウムのオンライン視聴は当日だけで300人。その後「共同テーブル」HPでのユーチューブ視聴は「7月7日現在2300人」にのぼっています。

第4回シンポの参加者感想の一部（抜粋）

- 孫崎さん、羽場さんお話が面白かったです。やっぱりこのような話を平日の日中に会場に来ることができる、シニア世代で独占してはいけない。若い層に拡げる方法を何としても考えなくては。片岡良男
- アジアの時代、もう米国の先兵となって国づくりをすることを止めなくては。日本の将来、というよりこの数年さえいかも知れない、と真剣に考えさせられたシンポジウムでした。今後とも共同テーブル支援します。匿名
- 孫崎さんの話はおもしろかった。知らなかったことが多く、また勉強したいと思った。羽場さんの話、少しでも回りの人に広めていきたい大事な指摘が沢山ありました。欧米中心みたいなとらえ方は、おしまいにしたいですね。小巻理恵子
- アジア・アフリカがこれからの世界を率いていくということや、敵対しない関係を作ることなど希望を感じる話でした。匿名
- 最初から最後まで、内容の濃いシンポジウムでした。服部良一さんが「非武装非同盟」を強調してくれたことがとても良かったと思います。相手が脅威であっても、その脅威には「非武装」で応えるのが戦争を避ける最も確かな方法です。匿名

『新しい戦前にさせない』連続シンポジウム第5回 予告

「軍拡と『ゾンビ家制度』の買一性差別大国(125位)・生活小国日本」

8月11日(祝) 1時30～4時30 文京区民センター第2会議室

竹信三恵子、雨宮処凜、杉原浩司、古今亭菊千代、杉浦ひとみ、白石孝

戦争や軍拡は、戦費のため保育や介護、教育・奨学金、医療、年金などの公的費用を切り縮め、家庭が「自己責任」でその穴を埋めることを求める生活問題です。

この間、公費を軍拡に際限なく注ぎ込むことを可能にした「軍拡二法案」も国会で成立しました。削り落とされる公共サービスの穴を無償の家族ケアで埋めるのは一線の女性であり、そんな負担増への

疑問を封じるのが「女だからしかたない」という性別分業意識です。夫婦別姓やLGBT法案への統一教会を始めとする反発は、戦争の下地づくりでもありました。

ただ働き福祉を女性に担わせて戦争国家を支えた戦前の「家制度」は、戦後も男性世帯主に家族を養わせ、低福祉を女性の無償ケアで埋めさせる政策として生き残り、いま、「家族ケアも仕事も女性活躍で頑張れ」のかけ声の下、ゾンビのように再強化されつつあるのです。

